



アスペンジュニアセミナー報告

NO.84

グローバル通信76号で告知したアスペンジュニアセミナーに高校2年生3名から参加希望が表明され、10月のオリエンテーションを経て11月から今年1月までの計3回のセミナーが修了しました。このセミナーでは東西の「古典」を教材にして各校から集まった15～20人編成の3クラスで円卓形式でひたすら対話が進められます。モデレーターとして村上陽一郎先生（東大名誉教授）、関根清三先生（東大名誉教授）、橋本典子先生（青山女子短大名誉教授）、荻野弘之先生（上智大教授）がグループに付いて下さいますが、先生方は見守りが中心で参加生徒の議論が中心となります。ご参考までに今回の使用テキストは以下の通りです。

Day 1 芭蕉 「おくのほそ道」 アリストテレス 「形而上学」

Day 2 カント 「永遠平和のために」 旧約聖書 「創世記」

Day 3 オルテガ 「大衆の反逆」 森鷗外 「かのように」

以下、セミナーに参加した3名の生徒諸君からのレポートを掲載します。どのような収穫があったのかご覧いただくと幸いです。討論風景の写真はアスペン研究所の許可を得て同研究所公式HPより転載しましたが、個人情報に配慮して解像度が調整されておりますのでどうかご了解ください。

アスペンセミナーを終えて

高校2年3組 下西ノ園 尚樹

「古典を読む」というとどのような印象を持つでしょうか。文法や単語が分からない、翻訳を読んでも言葉や言い回しが難しい、楽しくなさそうなどなど親しみにくい印象を持っている人も多いのではないのでしょうか。私も古典はハードルが高く、何度か読もうと挑戦しましたが、これまでまともに読めたことがありませんでした。そんな時にアスペンの記事を読み興味を持った私は今回参加しました。



アスペンの古典の読み方は対話形式で、まずは自分で課題となった古典を読み、その後印象に残ったり、違和感や反感を抱いた部分について対話を行うことで、自らの読みを深めるというものです。例えば『創世記』では基督教の知識を少しでも持っているテキストをなんとなくキリスト教的な解釈で読んでしまいます。しかしアスペンではそうした解釈にとらわれず純粋にテキストとして読もうとします。すると自分には引っ掛かからなかった箇所を指摘していたり、違う読み方をしている他のメンバーの考えを対話で知ることができます。これがとても面白かったです。例に挙げた『創世記』は私のグループのモデレーターの先生が聖書研究をされている関根先生だったので、諸外国の哲学者の聖書への言及や研究を踏まえて対話をリードしていただきました。それによってテキストを様々な観点から考えることができ、対話が盛り上がったので最も印象に残っています。

また今回扱ったテキストはどれも有名で、それに触れただけでも価値があったと思います。私は世界史を勉強していますが、特に文化史ではその内容までは深く扱われないので書名は知っていても実際にどんなことをどんなロジックで主張しているのかわかりません。（海城生も知らない人がほとんどだと思います…）そこで実際に古典を読んでみると、例えば今回扱ったアリストテレスが2000年以上前に書いた『形而上学』を当時の歴史を考慮して読むと現代に通用する言説が多く正直驚きました。アスペンのメンバーの言葉を借りると2000年経っても人間は背景は異なっても変わっていないと思うほどです。こうして日々当たり前になっていることを再考することが古典に学ぶということだと実感できたのは良い経験になったと思います。加えて個人的にはカントやオルテガなどの思想に触れることができたのは歴史を理解する手助けになりました。

ということでこのように古典を読み、対話をする機会は日頃の学校生活ではなかなかありませんが、とても面白く身につけるべき教養であるとも思います。来年も三人は参加することができるはずなので、興味がある人は是非参加してみてください！

アスペンジュニアセミナーを終えて

高校2年4組 高橋 祐樹

みなさん、古典は好きですか？…。僕は好きです。大昔の考え方があらわされている文章には、そこから現在の文化や社会が芽生えているような流れのようなものを感じ取ることができると思っています。これはもともと自分が読書をする中で得た知見なのですが、実際に自分でも思うようになりました。それらの原著は書いてある概念が現代からは想像しがたいものであったり、言葉が分からなかったりするため、手段としての品詞分解や助動詞の暗記などを古典の授業で扱うのだと納得していましたが、何か足りないような違和感を感じていたのも事実でした。

足りなかったもの。それが本セミナーでおこなう、古典の意味を考えるという本来の目的に沿った活動です。参加者は与えられた古典の抜粋を各々で読んだのち、輪になって感じたことを主に同年代の人たちと対話（dialogue）します。特に哲学の内容が色濃いテキストでは顕著でしたが、自分が新しいことを思いついても話すこと・聞くことのバランスを保ちながら参加し続けることの難しさを身に染みて感じました。



特に印象に残ったことにも触れたいと思います。みなさんがおそらく授業で読んだことがあるであろう『おくのほそ道』について、本セミナーでは有名な書き出し「月日は百代の過客にして～」から少しばかりを扱いました。僕も中2のときに読み、なんだか初々しい旅の感覚を垣間見ることができたのを覚えています。ところが3年経った今、芭蕉の俳句とその前後の文章を改めて読んでみると違ったのです。芭蕉は月日＝旅人という信条を人生の最終版に自ら体現しようとしたのではないかということや、江戸時代前期の日本は2人でぶらりと旅ができるほど社会が安定していたという時代背景。これらのようなことを読み取ったため発言してみると同様のことを考えていた人が多く、チーム内の対話もこれらの話題を中心に進行しました。しかし、文面や俳句の意味だけを考えていたところに上智大学荻野教授の何気ない一言。「現代人は何もかも写真に撮って残したが。でも5年後にその写真を見てみた時に、どう思う？全然思い出せないじゃ

ないか。」僕はその意味を察しました。僕らはエモいと感じるやいなや、それを伝えたいがためにインスタのストーリーに投稿したりするのが日常となっています。なのにそれを他人、特に薄い関係の人が見たときに、当人の感情の揺れ動きを想像する余地はあるでしょうか。無いと思います。結果としてあまり印象にも残らず、1週間もすればほとんど忘れてしまいます。それに対し、『おくのほそ道』では俳句という形を取っていますが、感情を凝縮した言葉は別の人が見ようと、いくつもの時代を超えようとなぜだか通じてしまうという神秘的な力があるし、記憶にも残る。情報化社会と現代技術の意味についても考えさせられた衝撃は、ずっと忘れません。

最後に、本セミナーに関わってくださった方々に感謝を申し上げるとともに、現在の高1生への宣伝をしたいと思います。本セミナーは大学教授を招いて行われ、実際に来る生徒も古典や倫理に対する興味関心を持って本格的にセミナーに臨むため濃密な時間を過ごせること間違いなしです。総合社会の授業で興味を持った方、古文漢文の授業に物足りなさを感じる方、無料でこんなオイシイ機会はないかなありません。来年度、ぜひ参加してみてくださいはいかがでしょうか。

アスペンジュニアセミナーを終えて

高校2年3組 清水 拓

11月から1月までの計3回アスペンジュニアセミナーに参加してきました。アスペンでは「古典」を読んで、同学年の人たちとともに「対話」をします。毎回セミナー前に2作品を読み、気になった箇所を印をつけて行き、セミナー当日には20人ほどで車座になり、各人が気になった箇所を共有する形式で行われました。

今年は日本書紀成立1300年ですが、古典というのは時代を超えて通用する多くの教養を含んでいます。実際、アスペンでいくつかの古典を読んでみても、新聞で読むような現代の課題にも通じる点も多くあると感じました。

また対話に向けて事前に古典を読むため、文章を丁寧に読み進める習慣を身に付けることが出来ました。セミナーにおける対話では、自分と違った読み方をした人の意見から気付かされることも多く、他人と一緒に学ぶことの大切さを再認識しました。

アスペンで扱った古典には難しい部分も多くありました。学校の古典の文章ほどではありませんが、私達が日頃使っている日本語と異なった言い回しが多く、また求められる背景知識の程度も非常に高いと感じました。



アスペンでは、モデレーターやリソースパーソンという専門家の先生方が対話のサポートをしてくださるので、文章の背景となる知識に気付かないで大きな誤読をしたままにはならないことから、安心して対話を進めることが出来ました。先生方は非常に博識で、当たり前のように話されていることにも知らないことが多く、休憩時間にお話したこととても勉強になりました。

海城生は勉強と遊びに忙殺されていると思いますが、時にはじっくりと古典に触れ、友人との対話を楽しんでもよいのではないかと思います。得るのが難しい知識ほど自分に残りますし、古典から得た知識は決して無駄にならないと信じているからです。

興味を持った高校一年生は来年度ぜひ参加してみてください。

イベント告知 高校生グローバルスクール（現中3～高1対象）

西東京国立3大学（東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学）が高校生を対象に共同で開催するイベントです。例年は夏休み中に実施されていましたが、今夏はオリンピック・パラリンピックが開催されるため、日程が変更になるとのことです。各回とも1泊2日の日程で開催されるそうです。

第1回 2020年9月20日（日）～21日（月・祝）

募集は5月に開始予定。9月20日（日）はあいにく本校の文化祭と重なる予定です。

第2回 2021年3月20日（土・祝）～21日（日）

募集は12月に開始予定。

昨年夏に実施されたプログラム風景（公式HPより転載）



東京農工大学のプログラム（8月3日）

「車の自動運転技術の進化」（東京農工大学 教授：ボンサトーン・ラクシンチャラーンサク先生）

都市の交通に注目して、交通安全の確保を前提とした自動運転技術の現状と将来の展望について学びました。



電気通信大学のプログラム

「住みやすい町のユニバーサルデザインを目指して」（電気通信大学 学術技師：笹倉 理子先生）

町のユニバーサルデザインをテーマに ICT がどのような役割を担うことが出来るかを考え、uec:bit (*) を用いてマイコン・プログラミングによる家電コントロールに関する実習を行いました。

*uec:bit は、micro:bit の電通大版互換機です。



東京外国語大学のプログラム

「なぜSDGsが問題なのか -- アフリカから考える」（東京外国語大学 教授：武内進一先生）

誰にとっても大切な「住む」ということについて、SDGs11がどのように取り上げているか、その意味や妥当性について、アフリカを題材にして学び、考察を深めました。